

にしじ

JULY.2008 Vol. **33**



図書まつり（医学・看護学・その他関連の新刊圖書の展示・即売）：なるほどライブラリで7月11日（金）にも行われます。

特集：高知医療センターのクリニカルインディケーター（C.I.） Vol. 2

- 第15回高知医療センター職員による学会出張報告（消化器科 森田雅範）
- 地域医療連携病院のご紹介（佐川町立高北国民健康保険病院）
- 高知医療センター イベント情報

高知医療センターの基本理念

医療の主人公は患者さん

高知医療センターの基本目標

1. 医療の質の向上
2. 患者さんサービスの向上
3. 病院経営の効率化

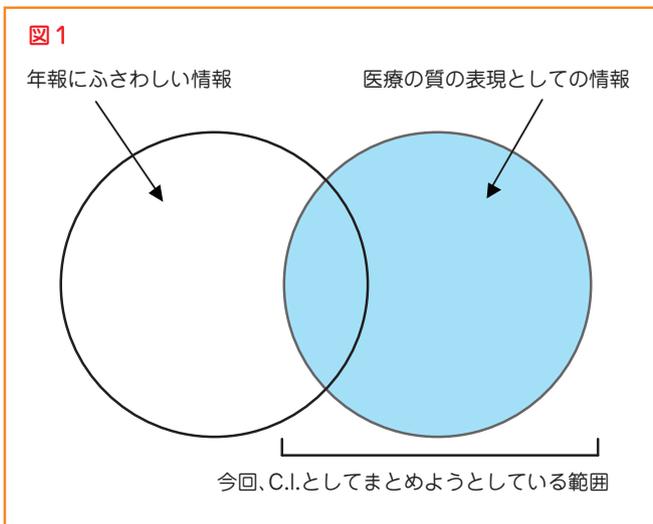
先月号の本誌紙上で述べました、当院の医療の質に関する指標一覧を今回まとめましたのでご覧ください。

今回は、ここに至る経緯などを述べましたが、今回も2点だけ追加があります。

1点目ですが、今回の一覧には個別診療機能指標に加え、その周辺、あるいは背景にあるものを総論的診療機能指標、基盤的指標として一緒に提示してあります。これは前者の理解・評価に当たっては後者の情報を是非、念頭においていただきたい、という気持ちを込めたものです。今回のC.I.に当院が「高知医療センター年報」として公表している情報を一部含んでいるのはこのためです(図1)。

2点目ですが、ご覧のように個別診療機能指標は1月から12月までの年単位で集計しているのに対し、総論的診療機能指標、基盤的指標は4月から3月までの年度単位の集計としています。これは前者が学術的な指標であり、年単位で表現することが適当と判断されるのに対し、後者ではそれが年度単位で集計されることが多く、今回はそれをそのまま使用したという事情によります。

次回以降、個々の指標の一層の改善に努めることに加え、より多角的な評価になるよう、指標の選択・追加を考えていきたいと思っています。



高知医療センター臨床評価指標(クリニカルインディケーター) 第一回集計(全69項目)

1 個別診療機能指標 (37項目)

指標番号	指標名称	H18年高知医療センターデータ(分子・分母)	H19年高知医療センターデータ(分子・分母)	算出単位(年、あるいは年度)	分子	分母	備考
1	脳神経外科退院患者の深部静脈血栓発生率(%)	0.16	0.00	年	退院時サマリの病名に深部静脈血栓が登録されている患者数	脳神経外科年間退院患者総数	入院時、すでに血栓があったと科長が判断できた症例は除いた。H18の分母は644例、H19の分母は775例。
2	脳神経外科における術後48時間以内の再手術(%)	1.75	1.90	年	科内の術後48時間以内の再手術(再手術は脳外→脳外と定義する)(付随する手術を含む)例数	脳神経外科における手術実施患者数	指標の趣旨から、ここでは緊急再手術をカウントすることとした。H18の分母は171例、H19の分母は210例。
3	慢性硬膜下血腫の再手術率(%)	5.3	11.1	年	該当年の再手術件数(初回手術の時期は考慮せず)	該当年の慢性硬膜下血腫手術実施総数	該当年の慢性硬膜下血腫手術を受けた患者リスト(初回手術の時期は考慮せず)から医師による該当例の抽出。H18の分母は19例、H19の分母は36例。
4	斜視手術件数(件)	57	96	年	カテゴリーに当てはまる患者総数	—	
5	代謝内分泌科医師の指示による外来個人栄養指導件数(件)	63	85	年	年間延べ数	—	人数でなく、件数とした。
6	当院で糖尿病治療を行った患者の中期的治療効果(グリコHbA1cの低下幅)(%)	3.23	—	年	[代謝内分泌科で治療開始時のHbA1c値-初診後半年以上(1年未満)で最も改善したHbA1c値]が集計可能であった患者データの平均値	—	1)治療の早期効果は例えば、退院時の血糖値があるが、これは指標としての値は高いとは言えない。一方、長期効果は糖尿病合併症の発生率・治療率が指標となろうが、開院後間もない当院では算出が困難である。このため、今回は中期的効果判定とした。 2)H19年分は、H20年春時点では算出できない。H18年の該当例は41例。
7	糖尿病治療を主目的とした入院患者の冠動脈循環評価率(%)	86.15	90.20	年	分母のうち、マスター心電図and/or心筋シンチand/or冠動脈カテのいずれかを実施している患者数	代謝科に入院し、糖尿病の治療が主目的であった患者総数	対象とした患者(分母)は、臨床的観点から入院中に冠動脈循環評価をすべき、と判断される患者群とした。妊娠糖尿病、他科での手術直前の患者など、当該入院中に冠動脈循環評価の適応にならない患者群は除いた。H18の分母は65例、H19の分母は51例。

指標番号	指標名称	H18年高知医療センターデータ (分子・分母)	H19年高知医療センターデータ (分子・分母)	算出単位 (年、あるいは年度)	分子	分母	備考
8	気管支鏡検査実施後の気胸発生率(%)	0.3	0.0	年	検査後気胸発生症例数	気管支鏡施行症例数	H18の分母は359例、H19の分母は362例。
9	造血幹細胞(同種、自家)移植実施数(件)	0	6	年	造血幹細胞移植実施数(同種、自家)	—	血液科、小児科の実績を合わせた。
10	リツキシマブ使用数(件)	45	51	年	使用患者数	—	
11	輸血時の不規則抗体スクリーニング検査の陽性率(%)	2.3	2.4	年	その陽性件数	輸血時の不規則抗体スクリーニング依頼件数	輸血時の不規則抗体スクリーニング依頼件数、H18の件数は1,653例、H19は1,713例。
12	腎生検実施数(腎臓科)(件)	82	66	年	科での腎生検総回数	—	
13	腎生検(腎臓科)における合併症発生率(%)	0.0	0.0	年	科での合併症発生数	科での腎生検総数	腎生検総数、H18は82例、H19は66例。
14	腎移植実施数(件)	8	9	年	腎移植総回数	—	
15	大腸内視鏡治療・処置後の緊急手術率(%)	0.0	0.0	年	穿孔による開腹手術症例数	大腸内視鏡ポリペクトミー・粘膜切除術実施総症例数	大腸内視鏡ポリペクトミー・粘膜切除術の総症例数、H18は208例、H19は169例。
16	総胆管結石処置後の緊急手術率(%)	0.0	0.0	年	穿孔による手術例数	総胆管結石処置実施総数	総胆管結石処置症例の総症例数、H18は55例、H19は124例。
17	ヘリポート利用数(件)	221	183	年	ヘリ搬送件数(搬入・搬出を含む)	—	救命救急センター実績統計 来院方法別統計(徒歩・搬送)、搬送来院患者統計
18	同一入院中で2回目以降の手術が緊急手術(予定してなかった手術で、科を問わない)であった患者の割合(%)	1.25	1.19	年	同一入院中で2回目以降の手術が緊急手術(科を問わない予定外手術)であった患者数	入院手術患者数	同一入院中に2回以上手術を受けた患者リストから、該当例を手術部責任者のリストから抜き出した。H18の分母は4,384例、H19の分母は4,558例。
19	輸血製剤廃棄率(%)	1.16	1.62	年	廃棄赤血球製剤単位数	輸血室から出庫した赤血球製剤単位総数	薬剤局よりのデータ。H18の分母は10,610例、H19の分母は8,705例。
20	麻酔からの覚醒遅延率(%)	0.02	0.00	年	術後2時間を越えて回復室に入室した延べ患者数	麻酔科医が麻酔を担当し、回復室に入室した手術・処置などの延べ患者数	H18の分母は4,384例、H19の分母は4,558例。
21	顎骨骨折観血的整復手術後の予定しない再手術率(%)	0.0	0.0	年	術後感染、プレート破損などによる再手術件数	手術実施患者数	H18の分母は5例、H19の分母は8例。
22	呼吸器外科手術後在院死亡率(%)	0.0	0.0	年	手術後在院死亡数	呼吸器外科全手術数	H18の分母は139例、H19の分母は115例。
23	呼吸器外科における胸腔鏡手術率(%)	40.3	45.2	年	分母のうち胸腔鏡手術数	呼吸器外科全手術数	H18の分母は139例、H19の分母は115例。
24	整形外科手術のうち、緊急手術例の割合(%)	28.71	29.42	年	緊急で行なわれた整形外科手術数	整形外科手術総数	該当患者(分子)の選別は、手術部責任者に確認。H18の分母は808例、H19の分母は843例。
25	総分娩数(件)	506	531	年	総分娩数	—	
26	ハイリスク妊娠症例(%)	60.47	64.41	年	ハイリスク妊娠症例数	総分娩数	H18の分母は506例、H19の分母は531例。
27	出生児体重<1,000gの産児数(人)	16	24	年	出生児体重<1,000gの産児数	—	
28	出生児体重1,000g以上、1,500g未満の産児数(人)	27	21	年	出生児体重1,000g以上、1,500g未満の産児数	—	
29	小児科外来患者延べ数(人)	15,135	15,460	年	小児科外来患者延べ数	—	

指標番号	指標名称	H18年高知医療センターデータ (分子・分母)	H19年高知医療センターデータ (分子・分母)	算出単位 (年、あるいは年度)	分子	分母	備考
30	小児科時間外入院率(%)	41.25	40.70	年	時間外に入院した小児患者	小児入院患者総数	H18の分母は943例、H19の分母は1,081例。
31	小児外科手術件数(件)	211	216	年	実施件数	—	
32	冠動脈造影総数(件)	—	786	年	実施件数	—	
33	冠動脈インターベンション初期成功率(%)	—	97.3	年	冠動脈インターベンション初期成功数	冠動脈インターベンション実施総数	H19の分母は336例。
34	カテーテル心筋焼灼術実施数(件)	75	76	年	実施件数	—	
35	心臓大血管手術症例数(件)	281	254	年	手術症例数	—	
36	冠動脈バイパス手術症例数(件)	112	111	年	手術症例数	—	
37	緊急手術症例(心臓・血管外科)(件)	129	91	年	救命救急センター経由の緊急手術症例数	—	

2 総論的診療機能指標(質的指標を中心とする) (15項目)

指標番号	指標名称	H18年高知医療センターデータ (分子・分母)	H19年高知医療センターデータ (分子・分母)	算出単位 (年、あるいは年度)	分子	分母	備考
38	外来予約時間遵守率(%)	—	66.9	定点	分母のうち、30分間の予約時間枠内に診療の始まった患者数	当該年度内の任意の1週間における、外来診療予約患者総数(但し、予約時刻に遅れた患者と当日、複数科を予約している患者は対象から除く)	30分毎に設定されている診療予約枠内で、予約のとおり医師の診療の始まった患者割合を算出した。
39	治験・製造販売後、臨床試験契約本数(数)	8	15	年度	治験・製造販売後、臨床試験契約本数	—	IROM(*1)提供資料を業務推進課で集計。
40	臨床治験症例数(件)	37	24	年度	臨床治験症例数	—	IROM提供資料を業務推進課で集計。
41	ボランティア1名あたりの月平均活動回数(回)	3.9	4.9	*年度	ボランティア活動回数	ボランティア活動人数	まごころ窓口にて集計。ただし、マクドナルドハウスでの活動を除く。*当院のボランティアの年度集計は3月～2月の12ヶ月。
42	ボランティア1名あたりの月平均活動時間(時間)	12.9	15.4	*年度	ボランティア活動総時間	ボランティア活動人数	まごころ窓口にて集計。ただし、マクドナルドハウスでの活動を除く。*当院のボランティアの年度集計は3月～2月の12ヶ月。
43	剖検率(%)	4.66	4.11	年度	剖検数	死亡患者数(入院+外来)	解剖数はIIMS(*2)(病理依頼件数H18は19件、H19年は17件)、死亡患者数(H18は408人、H19年は413人)HOPE(*3)にて集計。
44	AI (autopsy imaging) 件数(件)	51	66	年度	外来死亡した日にCT撮影がなされた患者数	—	外来で死亡した患者で、来院日にCT撮影がされた件数をIIMS・診療支援DWH(*4)にて集計。
45	褥瘡発生率(%)	2.5	0.6	定点	調査日に褥瘡を保有する患者数-入院時に褥瘡を保有する患者数	調査日の入院患者数	日本褥瘡学会による定義に従ってスキンケア・サポート室にて集計(毎月の発生率の年間平均)。
46	インシデントレポート報告率(%)	2.07	1.88	年度	インシデントレポート報告総数	退院患者の在院延べ日数	インシデントレポートシステムから医療安全管理室にて集計。
47	医師からのインシデントレポート報告率(%)	5.4	2.7	年度	医師からのインシデントレポート報告数	全インシデントレポート数	インシデントレポートシステムから医療安全管理室にて集計。
48	退院サマリ作成率(%)	—	79.2	年度	退院後1週間以内に科長または主治医が承認した件数	総退院患者数	中央診療情報管理室にて集計。

指標番号	指標名称	H18年高知医療センターデータ (分子・分母)	H19年高知医療センターデータ (分子・分母)	算出単位 (年、あるいは年度)	分子	分母	備考
49	研修医1人当りの講習会受講済み指導医(人)	—	0.47	年度	認定された指導医講習会を受講している指導医数	在院初期臨床研修医数	研修管理委員会研修プログラム届出事項(指導医講習はH19年度8名受講)
50	患者意見のうち、感謝文の割合(%)	19.6	17.2	年度	投書された感謝文の件数	投書された意見総数	H18の分母は1,058件、H19の分母は916件。まごごろ窓口にて集計。
51	苦情発生率(%)	0.5	0.5	年度	投書された苦情件数	実入院患者総数	まごごろ窓口にて集計。
52	転倒転落率(%)	0.16	0.16	年度	入院中の転倒・転落患者数(延べ件数)	在院患者延べ数	[件数/患者・日]としてインシデントレポートシステムから医療安全管理室にて集計。

3 基盤的指標(実績的指標を含む) (17項目)

指標番号	指標名称	H18年高知医療センターデータ (分子・分母)	H19年高知医療センターデータ (分子・分母)	算出単位 (年、あるいは年度)	分子	分母	備考
53	入院患者数(人)	12,023	12,222	年度	新入院患者数	—	医事統計レポート(医事DWH)(*4)より算出。
54	退院患者数(人)	12,029	12,199	年度	退院患者数	—	医事統計レポート(医事DWH)より算出。
55	1日平均外来患者数(人)	685	680	年度	実稼働日数	—	医事統計レポート(医事DWH)より算出。
56	年間新規患者数(人)	20,085	17,811	年度	新規外来患者数	—	新たにIDを取得した患者数として医事統計レポート(医事DWH)より算出。
57	1日平均在院患者数(人)	466	447	年度	実入院患者数	365日	24時現在で在院している患者数として医事統計レポート(医事DWH)より算出。
58	1日平均入院患者数(人)	499	480	年度	延入院患者数	365日	上記に退院患者を含むものとして医事統計レポート(医事DWH)より算出。
59	病床数(床)	648	632	年度当初	許可病床数	—	医療法届出事項(結核病床を含む)
60	稼働病床数(床)	648	592	年度	稼働病床数	—	医療法届出事項(休床の届出した病床を除く)(H20年3月のみ562床)
61	平均在院日数(日)	14.2	13.4	年度	実入院患者数+同日入退院患者数	(新入院患者+退院患者数)÷2	医事統計レポート(医事DWH)より算出。
62	一般病床の平均在院日数(日)	13.6	12.5	年度	実入院患者数+同日入退院患者数	(新入院患者+退院患者数)÷2 ※転入転出含む	医事統計レポート(医事DWH)より算出。ただし、分子は実入院患者数と同日入退院患者数で計算。
63	病床利用率(%)	85.10	89.76	年	延入院患者数	(月間日数×月末病床数)の1月～12月の合計	一般病床(特定入院対象病床および結核病床を除く)への延べ入院患者数を医事統計レポート(医事DWH)より算出。
64	病床回転率(%)	24.6	27.5	年度	前年度繰越患者数+入院患者数+転入患者数	稼働病床数	医事統計レポート(医事DWH)より算出。
65	紹介率(%)	53.41	55.18	年度	地域医療支援病院申請基準算定方法に準拠	地域医療支援病院申請基準算定方法に準拠	医事統計レポート(医事DWH)より算出。ただし、地域医療支援病院の式で計算。
66	逆紹介率(%)	72.54	84.95	年度	地域医療支援病院申請基準算定方法に準拠	地域医療支援病院申請基準算定方法に準拠	医事統計レポート(医事DWH)より算出。ただし、地域医療支援病院の式で計算。
67	死亡退院率(%)	2.94	2.81	年度	死亡退院数(外来死亡例は含まない)	年間退院患者数	医事統計レポート(医事DWH)より算出。
68	DPC(*5)入院期間Ⅱ以内の退院率(%)	—	77.8	年度	入院期間Ⅱ以内の退院患者数	DPC退院患者数	IIMS・DPCオーダより集計。
69	DPC2SD(*6)超えの退院率(%)	—	5.8	年度	2SD超え退院患者数	DPC退院患者数	IIMS・DPCオーダより集計。

*1: IROM(アイロム、院内治験コーディネーター) *2: IIMS(統合情報システムIntegrated Intelligent Management System)
*3: HOPE(医事業務システムの名前) *4: DWH(医事データウェアハウス) *5: DPC(包括評価 Diagnosis Procedure Combination)
*6: DPC2SD(各DPCにおける平均在院日数+2×標準偏差)

第15回：医療センター職員による学会出張報告



高知医療センターの医師はいろいろな学会に参加しています。そのなかから、学会レポートをご紹介します。

第75回日本消化器内視鏡学会総会
in 横浜
平成20年5月24～26日

消化器科 森田 雅範



(会場前：左より森田雅範部長、西方誠医師、山田高義医師)

今回、久々に学会に参加してきました。なかなか病院での業務が忙しく、総会の参加は今回が初めてで、大西知子医師の提案により、「休みのときくらい学会に参加しないと世の中に遅れていく」とはっばをかけられての参加でした。残念ながら、当の本人の大西知子医師が風邪で休んでしまい、私（森田雅範）、山田高義医師、西方誠医師の3人で土曜日、日曜日だけの参加となりましたが、学会に参加して新たに刺激を受けてきました。

学会では、最近の内視鏡学会も内視鏡処置の難易度、入院期間、どの位の経費がかかるかなど、医療経済面からの検討も多くされるようになってきています。今回は内視鏡学会になってから50周年だそうで、26日には記念式典も行われました。

当院で行なっていることと、学会レベルのお話を比較しながらご報告をしていきます。

食道・胃粘膜剥離が保険で認可され、手術が行われるようになり、多くの会場で達人に聞く粘膜剥離のコツ、および困難症例の提示がありました。内視鏡手術というにふさわしい症例の提示が次々と紹介され、また、困難な大腸の腫瘍病変の粘膜剥離もどんどん行われるようになってきていました。当院では山田高義医師が中心になり、食道・胃の粘膜剥離を行っていますが、大腸の粘膜剥離まではハードルが高く行なえていません。ただ、大腸ポリープ切除、粘膜切除も学会レベルでも日帰りで行

なわれることが多くなり、医療経済的にも優れているようです。以前より、当院でもかなりの方が日帰り手術の形で行っています。

胆膵系の処置も胆道内視鏡、狭帯域フィルター内視鏡（Narrow Band Imaging:NBI）など多くの演題があり、見応えのあるもの、聞き応えのあるものが多く存在しました。胆膵系の処置は、当院では西方誠医師が中心になり行なっていますが、学会レベルでも当院でも同様に膵管・胆管内の表層拡大型腫瘍が問題になっていました。肝門部胆管癌のステント留置、治療方法など参考になる発表も聞くことができました。その他、上部消化管出血、下部消化管出血症例の処置といった多くの問題が討議されていました。

最近話題の経鼻内視鏡はマスコミ主導で有名になりましたが、実際は評価をされておらず、画質操作性にかなり劣っているようです。光量不足、情報量の限界があり、NBI併用でも胃体部・弓隆部はかなり診断性能が劣るようで、今後、真の評価を受ける必要がありそうです。少しの楽を取るか、診断性能をとるか議論がされていました。

特別講演では、カプセル内視鏡、超音波内視鏡の特別講演があり、ロンドンよりEUにおける現状として、カプセル内視鏡下生検、外部よりのリモートコントロールなど基礎的な実験が行われていました。カリフォルニアよりアメリカでは、超音波内視鏡では生検穿刺レベルではなく、マイクロシース化した放射線源を注入したり、遺伝子を局所注入したり、診断レベルではなく治療レベルに使用され、膵癌生存率の向上に期待ができるなど、日本では考えられない内容の発表に驚きました。

夜は名幹事の山田高義医師がいい店を予約してくれて、高知医大当時の先生方と一緒に、土曜の深夜までたらふく美味しい食事を中華街で紹興酒とともに楽しみました。最後に留守を守ってくれた先生へのお土産に、大西知子医師ご指名のヘイチンロウ店で、はず入り実月餅をお土産に買って帰途につきました。



佐川町立高北国民健康保険病院

〒789-1201 高知県高岡郡佐川町甲1687
 電話：0889(22)1166 FAX：0889(22)7414
 URL：http://www.town.sakawa.kochi.jp/kohokuHP/kohokuTOP/top/TOP.HTML

(診療科)

内科、整形外科、産婦人科、外科、循環器科、小児科、脳神経外科、消化器科、呼吸器科、放射線科、リハビリテーション科

(附属施設)

黒岩診療所、尾川診療所、介護老人保健施設「希望」、居宅介護支援事業所「こうほく」、デイサービスセンター「さくら荘」「斗賀野荘」



後列左より麻田正志事務局長、真辺千穂副総看護師長、居宅介護支援事業所「こうほく」の中平伸仁さん、ケアマネージャーの濱田修年さん、前列左より和田幸久院長、廣瀬牧子総看護師長

佐川町立高北国民健康保険病院は昭和26年、旧佐川町を中心に6ヶ町村の組合立病院として設立されました。現在の病床数は、一般病床50床（うち亜急性期10床）、結核病床10床、療養病床48床の合計108床となっています。常勤医師の診療科は、内科（消化器科、呼吸器科を含む）、整形外科（リハビリテーション科）、産婦人科で、非常勤医師の診療科は、外科、循環器科、小児科、脳神経外科、放射線科となっています。また附属施設として、デイサービスセンター「さくら荘」「斗賀野荘」、そして今年5月より居宅介護支援事業所「こうほく」、6月より介護老人保健施設「希望」を設置し、診療だけではなく、介護に関する地域の皆さまのご要望にお応えできる体制を整えています。今回は和田幸久院長、廣瀬牧子総看護師長、真辺千穂副総看護師長、そして麻田正志事務局長にお話を伺いました。

Q：貴院についてお聞かせください。

A：医師が少ない中でいろいろな診療科があります。高知医療センターには快く救急搬送を受け入れていただいたり、高吾北地域の患者さんをご紹介していただいたりしています。外科の医師が非常勤のみになりましたので、当院で外科手術が必要な患者さんは他の医療機関へお願いをして、その後、術後の患者さんを受け入れています。救急に関しては、現在は当直医1名の体制になっており、限られた救急のみの対応になっています。

Q：貴院の医療連携についてお聞かせください。

A：当院は地域医療・介護部門として病歴管理部門、退院調整部門（継続看護）、地域連携部門（地域連携・医療福祉相談室）、在宅部門（訪問看護室）、そして介護施設部門（居宅介護支援事業、介護老人保健施設、デイサービスセンター）を設置し、患者さんや地域の方々のニーズに合わせて各部門が業務を担当し連携をとっています。地域連携についてはご本人とご家族の意向が大事だと思っています。

Q：現在、力を入れていることはありますか？

A：ケアミックスに力を入れています。デイサービスセンター「さくら荘」「斗賀野荘」を活かして、また老人保健施設「希望」が6月15日にオープンし、居宅介護支援事業所「こうほく」も開設し、介護部門の充実を図りました。これで病院での治療だけではなく、介護も含め、いろいろな面で地域に根ざした「地域包括ケア」を行っています。介護老人保健施設は17床です（内3床はショートステイ）。これらの機能を上手く利用して、地域の住民の皆さんに充実した医療が提供できるように、連携も密にしていきたいと思っています。また、いろいろなレベルの患者さんを受け入れられる病院になりたいですし、検診も含めて住民の健康管理についても力を入れていきたい

と思います。

Q：訪問看護、訪問診療についてお聞かせください。

A：24時間対応ではありませんが、訪問看護は看護師2名、訪問リハビリは理学療法士4名、言語聴覚士1名のローテーションで対応しています。現在は20数名を訪問看護、訪問リハビリで診ています。終末期の患者さんに点滴を行ったり、ご家族とお話をしたり、在宅で呼吸器管理をしている方や通院が困難な方などの訪問をしています。課題としては、人員に限りがありますが、何とか少しでも多くのご要望に対応できるよう老健やショートステイなどとの連携を濃くしていきたいと思っています。訪問診療につきましては、ご本人とご家族との間で時間などを決めて診療に伺っていますが、全てに対応することはなかなか難しく、できる範囲での往診を行っています。

お忙しいなか取材にご協力いただきありがとうございました。



退職者・新採用者（敬称略）

6月末退職

森岡信之（産科）→後任は林和俊（新採用）
 那須良次（泌尿器科）→後任は小野憲昭（昇任）
 古野貴志（循環器科）→後任は山本克人（併任）
 寺澤優代（呼吸器科）→毎週木曜日の外来は継続
 国澤進（呼吸器外科）

7月4日付退職

楠目智章（婦人科）

7月1日付採用

林和俊（産科） 堀崎孝松（循環器科）

鈴木友彰（心臓血管外科）

7月1日付採用（専修医）

倉橋寛明（泌尿器科） 新居和人（呼吸器外科）

日	曜	7月～
3	木	第4回高知医療センター地域医療（内科系）症例報告会 内容：「内科系疾患患者さんの診断・治療の報告」8症例（予定） 場所：高知医療センター2階 くろしおホール 時間：19：00～21：00 お問い合わせ：高知医療センター 副院長 深田順一
8	火	第7回高知医療センター外科グループ手術症例検討会 内容：「症例発表5～6題」（予定） 場所：高知医療センター2階 くろしおホール 時間：19：00～21：00 お問い合わせ：高知医療センター 地域医療連携室／消化器外科・地域医療センター長 西岡豊
11	金	恒例・図書まつり （医学、看護学、その他医療関係の図書を展示・即売） 場所：高知医療センター2階 なるほどライブラリ 時間：11：00～18：00 お問い合わせ：高知医療センター なるほどライブラリ 橋田圭介
13	日	平成20年度第1回学術講演会「糖尿病セミナー」（仮題） 司会：高知市歯科医師会学術部長 岩田耕三 内容：「高知県における糖尿病の実情」高知医療センター 副院長 深田順一 「糖尿病の治療と合併症」高知医療センター 代謝・内分泌科 菅野尚 「糖尿病患者に出る薬、出す薬」高知医療センター 薬剤局 段末雅弘 「糖尿病と皮膚疾患」高知医療センター 皮膚科 高野浩章 「口腔疾患と糖尿病」高知医療センター 歯科口腔外科 立本行宏 場所：高知医療センター2階 くろしおホール 時間：10：00～15：30 お問い合わせ：高知医療センター 歯科口腔外科 立本行宏
19	土	平成20年度第1回高知医療センター地域がん診療連携拠点病院公開講座・特別講演会 公開講座内容：「食道がんの内視鏡的手術について」講師：高知医療センター 消化器科 森田雅範 「食道がんの放射線・化学療法について」講師：高知医療センター 腫瘍内科 辻晃仁 特別講演内容：「縦隔鏡による食道がんの切除について」講師：徳島大学大学院 病態制御外科学 丹黒章 教授 場所：サンピア高知 レインボーホール3F（高知市高須砂地155） 時間：14：00～16：30 ※入場無料、定員約200名 事前申込は不要です。 お問い合わせ：高知医療センター事務局業務推進課
23	水	循環器病センター循環器疾患講義（★） 場所：高知医療センター2階 くろしおホール 時間：18：00～ お問い合わせ：高知医療センター 循環器科 伴田圭一
26	土	高知医療センター第1回地域医療研修会 内容：「中心静脈リザーバって知ってますか？」講師：高知医療センター・がんセンター長 森田荘二郎 「血管内留置カテーテルの感染を防ぐ日常管理のポイント」講師：高知医療センター・感染管理認定看護師 西川美千代 場所：高知医療センター2階 くろしおホール 時間：13：30～16：00 お問い合わせ：高知医療センター 地域医療連携室／消化器外科・地域医療センター長 西岡豊
28	月	第31回高知医療センター救命救急センター救急症例検討会 場所：高知医療センター2階 くろしおホール 時間：17：30～ お問い合わせ：高知医療センター 救命救急センター

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。背景に色がついている講座は是非、地域の医療機関の皆さまにご参加いただきたいものとなっております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。★マークは院内職員向けの講座となっております。
 ※先月号（6月号）でご紹介しました19日（土）予定の高知内視鏡フォーラムは9月の開催予定に変更となりました。

編集後記

この春から地域医療連携室の一員となり、あっという間に3ヶ月が経過しました。病院勤務は初めての経験で、不安や戸惑いもあり、まだまだ不慣れではありますが、周囲の方々からの温かい励ましのお言葉とご指導をいただきながら毎日の業務に取り組んでいます。地域医療連携室の役割を通じて、高知医療センターご利用の患者さんと関連機関の皆さま方に貢献できるような一杯頑張りたくです。今後ともよろしくお願いたします。

（地域医療連携室 MSW大下）



平成20年7月1日発行
 にじ 7月号（第33号）
 責任者：堀見 忠司
 編集人：地域医療連携広報委員
 特別編集委員
 発行先：地域医療センター
 地域医療連携本部
 印刷：共和印刷株式会社

高知医療センター
 〒781-8555 高知県高知市池2125-1
 TEL：088（837）3000（代）

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp
 Kochi Health Sciences Center Home Page : <http://www2.khsc.or.jp/>